

竜王町子どもの体力向上推進計画

竜王っ子 体力向上フラッシュ



平成27年6月

竜王町教育委員会

はじめに

本町では、平成23年に制定されたスポーツ基本法に基づき、平成24年4月に「みんなが主役 広げよう スポーツの輪」をスローガンに町民一人ひとりのスポーツの日常化を目指して、竜王町スポーツ推進計画を策定し、スポーツ振興施策を展開しているところです。

このような施策を進めていく中、少子化にともなう生徒数の減少により本町中学校の教員数が減り、部の数が減少していく方向になり、小学校から続けてきた競技スポーツができないなどの課題が深刻化してきました。また、今日のライフスタイルの変化に伴い、本町の子どもの基礎的運動能力（跳・投・走）のある子とない子の二極化がすすみ、関係機関と連携をしながら運動遊び等の取組を進めているところですが、体力がピークだった昭和60年頃の水準には及ばない状況など早急に解決しなければならないが課題があがってきました。

そのため、本町子どもたちが自己の運動および健康に関する生活をより豊かにしていくために、平成25年11月に竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会を立ち上げ、竜王町における「子どものスポーツ活動のあり方」について審議を重ねてきました。体力・運動能力向上に向けた取組は、短期的に効果・結果が表れるものではなく中長期に進めていく中で、幅広く貴重な意見がだされ、委員会の中では、竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子 体力向上プラン」を策定しました。

今後、この計画をもとにこれまで以上に家庭・学校・地域などが連携・協働し、町の施策を展開してまいりますので、町民、各団体・機関などの関係者の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり、建設的な提案を賜りました竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会委員の皆様、貴重なご意見をいただきました多くの機関や団体の関係者各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成27年6月

竜王町教育委員会

教育長 岡 谷 ふさ子

目次

1. 竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子体力向上プラン」の概要	p1
2. 竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子体力向上プラン」策定の背景	p2
(1) 計画策定の趣旨	
(2) 体力の基本的な考え方	
(3) 計画の位置付け	
3. 子どもの体力・運動能力・運動習慣の現状	p5
(1) 全国・滋賀県・竜王町の体力・運動能力の状況	
(2) 竜王町の子どもの生活習慣の状況	
4. 体力向上推進にかかわる現状と課題	p7
(1) 竜王町内の子どもたちのスポーツを取り巻く環境	
(2) 子どもの体力低下の原因と課題	
(3) 学校の現状と課題	
5. 町の体力向上施策の課題に向けての方向性	p10
(1) 推進目標	
(2) 計画年次	
(3) 目標達成に向けた基本方針と方策	
資料	p15

1. 竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子体力向上プラン」の概要

【計画期間】平成27年度(2015年度)～平成31年度(2019年度)

【策定の趣旨】

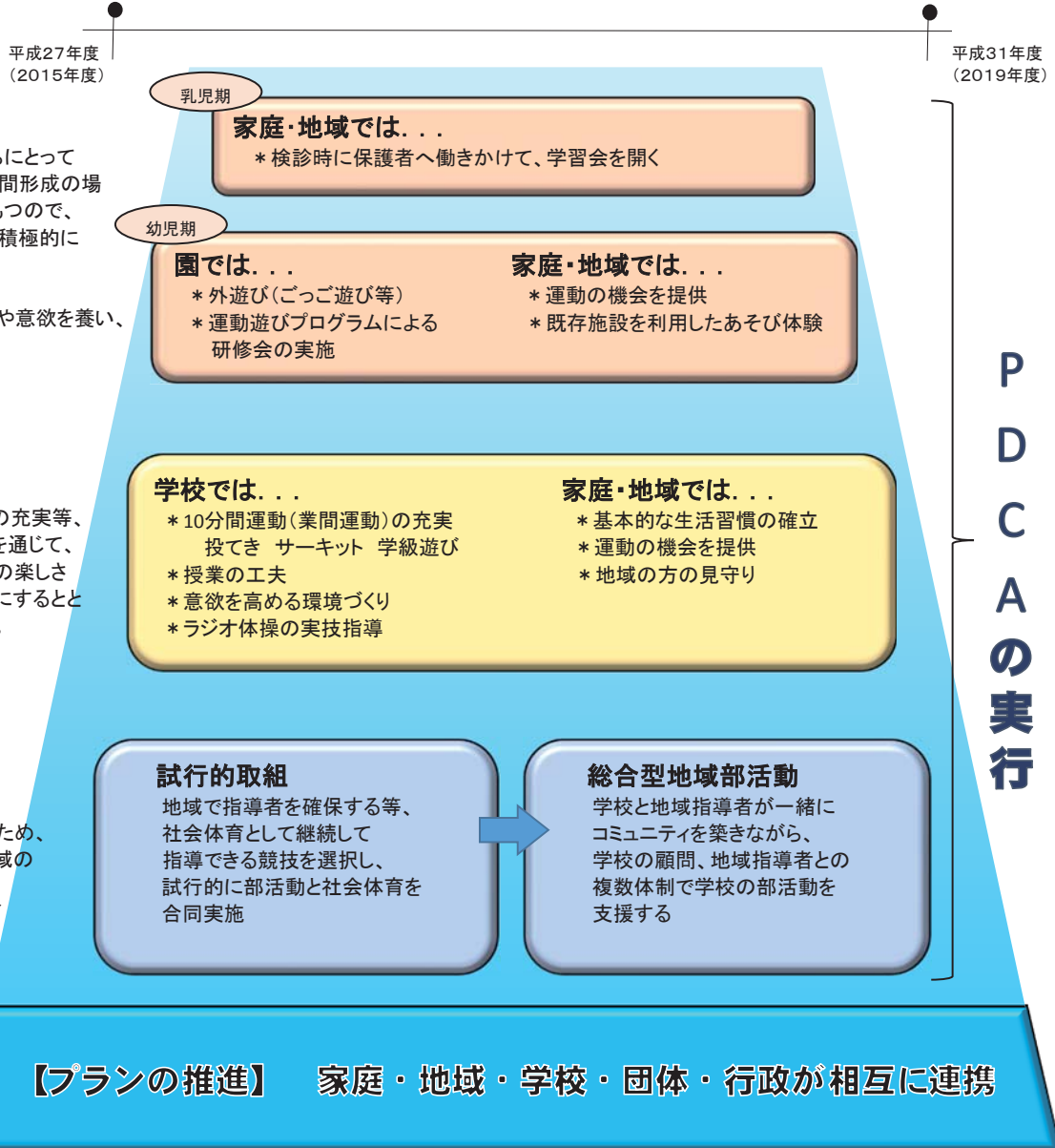
子どもの時期に活発な身体活動を行うことにより、個人としての成長・発達に必要な「体力」を高めることはもとより、運動・スポーツに親しむ身体能力の基礎を養い、病気から身体を守る「体力」を強化し、より健康な状態をつくっていくこととともに、中学校の部活動の充実・発展につなげる。

目指す方向

生涯にわたってスポーツができるよう『時間』『空間』『仲間』を生み出し、家庭・地域と学校園・行政が一体となって、スポーツをする機会の確保や環境を改善し、体力の向上につなげる

平成31年(2019年)の竜王っ子の姿 “竜王町の未来を拓く心豊かでたくましい竜王っ子”

平成31年(2019年)年までに、幼小中の幼児、児童、生徒の体力について昭和60年の体力水準を上回る



2. 竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子体力向上プラン」策定の背景

(1) 計画策定の趣旨

近年、社会を取り巻く変化は著しく、情報・科学技術が大きく伸展したことにより社会全体がグローバル化し、物質的に繁栄する一方で、少子高齢化や核家族化に伴う生活環境の変化は、私たちの価値観やライフスタイルを大きく変え、生活の利便性向上につながっている反面、子どもたちの運動をする環境に大きな影響を与えています。

竜王町では、体力テストの結果から子どもが身体を動かす機会の減少による体力の低下がみられ、運動能力の高い子・低い子の二極化現象が起きています。また、中学校では少子化による生徒数の減少とそれに伴う教職員の減少により生徒が望む部活動ができない、指導ができる専門の顧問がいない、大会等における引率者の不足などの課題があります。

こうした本町の子ども期の運動する環境を取り巻く課題に適切に対応するため、本町の子ども期の運動やスポーツ活動の基本的な方向性を定め、子どものスタイルに対応した運動習慣の獲得に向けた取組や部活動の充実のための支援などの施策を計画的に進める、竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子 体力向上プラン」を策定することとします。

(2) 体力の基本的な考え方

平成 14 年 9 月に中央教育審議会が答申を行った「子どもの体力向上のための総合的な方策について」において、「体力は、人間の発達・成長を支え、人として創造的な活動をするために必要不可欠なものであります。したがって、体力は、人が知性を磨き、知力を働かせて活動していく源であります。また、体力は、生活をする上での気力の源であり、体力・知力・気力が一体となって、人としての活動が行われていきます。このように、体力は「生きる力」の極めて重要な要素となるものである。」としています。平成 20 年 1 月の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（答申）においても、「体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きくかかわっており、「生きる力」の重要な要素である。」とし、体力の意義・重要性について同様に定義づけられています。

このように、「体力」は、人間のあらゆる活動の源であり、健康な生活を営む上でも、また物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実に深く関わっており、人間の健全な発達・成長を支え、より豊かで充実した生活を送る上で大変重要なものであります。

このことから、子どもの時期に活発な身体活動を行うことは、個人としての成長・発達に必要な「体力」を高めることはもとより、運動・スポーツに親しむ身体的能力の基礎を養い、病気から身体を守る「体力」を強化し、より健康な状態をつくっていくことにつながっていきます。

【中央教育審議会答申】抜粋

「子どもの体力向上のための総合的な方策について」 平成 14 年 9 月 30 日

体力は、人間の発達・成長を支え、人として創造的な活動をするために必要不可欠なものである。したがって、体力は、人が知性を磨き、知力を働かせて活動していく源である。また、体力は、生活をする上での気力の源であり、体力・知力・気力が一体となって、人としての活動が行われていく。このように、体力は「生きる力」の極めて重要な要素となるものである。

しかし、現実には、子どもの体力は低下を続けており、子どもたちの健康への悪影響、気力の低下などが懸念される。また、このまま子どもが成人した場合、病気になる者の増加や気力の低下によって社会を支える力が減少し、少子高齢化となる将来の我が国の社会が沈滞してしまうのではないかと危惧する。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」 平成 20 年 1 月 17 日

(7) 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

○第三は、体力の向上など健やかな心身の育成についての指導の充実である。

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、「生きる力」の重要な要素である。子どもたちの体力の低下は、将来的に国民全体の体力低下につながり、社会全体の活力や文化を支える力が失われることにもなりかねない。

(3) 計画の位置付け

平成 24 年 3 月に文部科学省が我が国のスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため「スポーツ基本計画」を策定しています。

スポーツ基本計画

スポーツ基本法の規定に基づき、平成 24 年 3 月に文部科学大臣告示として策定。

(平成 24 年度 (2012 年) ~ 33 年度 (2021 年) の 10 年計画)

○政策目標

子どものスポーツ機会の充実を目指し、学校や地域等において、すべての子どもがスポーツを楽しむことができる環境の整備を図る。

そうした取組の結果として、今後 10 年以内に子どもの体力が昭和 60 年頃の水準を上回ることができるよう、今後 5 年間、体力の向上傾向が維持され、確実なものとなることを目標とする。

◇学校と地域における子どものスポーツ機会の充実

(1) 幼児期からの子どもの体力向上方策の推進

- ・「全国体力・運動能力等調査」に基づく体力向上のための取組検証改善サイクルの確立
- ・幼児期における運動指針をもとにした実践研究等を通じた普及啓発

(2) 学校の体育に関する活動の充実

- ・体育専科教員配置や小学校体育活動コーディネーター派遣等による指導体制の充実
- ・武道等の必修化に伴う指導力や施設等の充実
- ・運動部活動の複数校合同実施やシーズン制による複数種目実施等、先導的な取組の推進
- ・安全性の向上を図るための学校と地域の医療機関の専門家等との連携の促進、研修の充実
- ・障害のある児童生徒への効果的な指導のあり方に関する先導的な取組の推進

(3) 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

- ・子どものスポーツ参加の二極化傾向に対応した、総合型クラブやスポーツ少年団等における子どものスポーツ機会を提供する取組等の推進
- ・運動好きにするきっかけとしての野外活動やスポーツ・レクリエーション活動等の推進

地方自治体は、スポーツ基本法において、この国の計画を参考にして、地方の実情に則したスポーツの推進に関する計画を定めることとなっており、竜王町では、平成 24 年 4 月に「竜王町スポーツ推進計画」を策定しています。

竜王町スポーツ推進計画（平成 24 年 4 月策定）

「第 5 次竜王町総合計画」に基づき、これからの竜王町としてのスポーツ推進施策を、10 年後の平成 33 年度を目標年度とした取組を、住民やスポーツ団体等からの意見も受けて策定。

○子どもの体力の向上

子どもたちの健やかな体づくりのために調和のとれた食事や十分な睡眠を取ることをすすめるとともに、日頃の基本的習慣をつけさせ、基礎的な運動能力や体力の向上を図り、成人後においても生涯にわたりスポーツを親しむことができる子どもたちを育てる。

また、改正教育基本法に示された教育の理念の実現に向けて、今後 10 年間を通じて目指すべき教育の姿を明らかにするとともに、計画策定後 5 年間（平成 25～29 年度）に取り組むべき施策を総合的・計画的に推進するものとして政府が策定した第 2 期「教育振興基本計画」では、基本的方向が次のとおり示されています。

教育振興基本計画（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）

○基本的方向性（社会を生き抜く力の養成）に基づく方策

成果目標 「生きる力」の確実な育成

変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、「生きる力」を一人一人に確実に身につけさせることにより、社会的自立の基礎を培う。

（健やかな体）

子どもの体力が、体力水準の高かった昭和 60 年頃の水準を上回ることを目指すなど、生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を養う。

→成果指標

体力の向上傾向を確実にする（今後 10 年間で子どもの体力が昭和 60 年頃の水準を上回ることを目指す）

滋賀県教育振興基本計画（平成 26 年 3 月 24 日策定）

○基本的方向性（子どものたくましく生きる力を育む）に基づく方策

成果目標 「健やかな体」を育む

心身の健全な発達を促すため、学校体育の充実を図り、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力を育てるとともに、体力の向上と健康の保持増進の基礎となる力を培います。

（子どもの運動習慣の確立）

体力向上等の基礎となる力を培うため、学校や地域において小さいころから運動習慣を身につけるための取組を進めます。

→施策・取組

ア 幼児期の運動（遊び）・スポーツ活動を充実させるため、家庭でできる実践事例等を提供

イ 学校や地域における 1 日 30 分運動、体力向上支援プログラムの DVD を活用した授業実践、学校での 10 分間運動など「子どもを運動（遊び）好きにするための取組」の一層の推進

ウ 運動部活動活性化のための外部人材も含めた指導者の育成・確保等

エ 学校体育における指導内容の明確化および授業改善の推進

さらに、運動習慣の基盤づくりを通して、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・

運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指し、幼児期の運動の在り方についての指針を文部科学省が策定しました。

幼児期運動指針（平成 24 年 3 月 30 日策定）

○基本目標（幼児は、様々な遊びを中心に毎日、合計 60 分以上、楽しく体を動かす）

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成のため

- ① 多様な動きが経験できるように様々な運動を取り入れる
- ② 楽しく体を動かす時間を確保する
- ③ 発達の特性に合った遊びを提供する

上記の各計画をふまえ、竜王町の未来を拓く心豊かでたくましいひとづくりの理念の実現に向けた本町の教育行政方針の中で、子どもの体力、運動能力の向上に向けた取組を示しています。

竜王町教育行政基本方針

○重点目標 「スポーツの日常化」をめざした健康体力づくりの推進

○重点施策 子どもの体力、運動能力向上に向けた取組

- ・ 学校園や地域振興事業団との連携による就学前の幼児から小学校低学年にむけた親子でできる運動遊びの普及活動や体力向上研修会の開催
- ・ 幼少期における子どものスポーツ活動のあり方の検討

3. 子どもの体力・運動能力・運動習慣の現状

(1) 全国・滋賀県・竜王町の体力・運動能力の状況

ア 全国

- ・ 昭和 60 年頃以降長期的に低下傾向
- ・ 現在は下げ止まりの状況
- ・ 近年、中高生男子にわずかに向上の兆しが見られると言われる
- ・ 自分の身体を操作する能力の低下も指摘
→ 靴のひもを結べない、スキップができない、転んだときに手が付けない、ボールをよけられず頭に当たる など

イ 滋賀県

- ・ 全国と同様に昭和 60 年頃から低下傾向
- ・ 体力合計点の滋賀県平均は、全国平均と比較するとほぼ同水準か、やや上回る
（「平成 25 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果より）

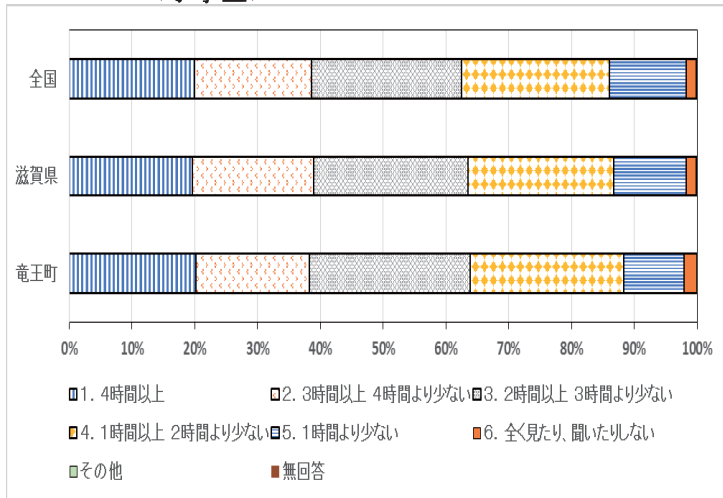
ウ 竜王町

- ・ 小学校では、県平均と比較すると学年や男女の差異はあるが、全体的に握力や上体起こし、長座前屈など、筋力や柔軟性を含む要素のある能力項目は上回っているが、ソフトボール投げや立ち幅跳び、50m走といった、子どもたちの基礎運動（投・跳・走）の能力項目が下回っている。
また、過去 3 年間、各種目の町平均値が年々少しずつ下がっている。
- ・ 中学校では、全体的に県平均を上回っている。また、過去 3 年間、各種目の町平均値は全体的に同じ値である。
このことは、部活動など日々の運動量の増加など体を動かす機会の確保が中学生の体力向上に表れている。

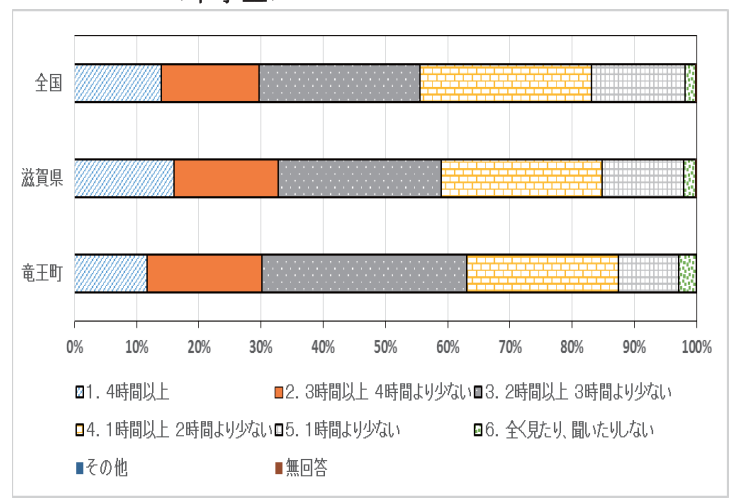
(2) 竜王町の子ども生活習慣の状況

※ 「平成 25 年度全国学力・学習状況調査」結果 小学校は 5・6 年生、中学校は 3 年生が調査対象
 ア テレビ（1 日の視聴時間） 小、中学生ともに、全国に比べて 1 日に 2 時間以上テレビを視聴する割合が高い傾向にある。

<小学生>

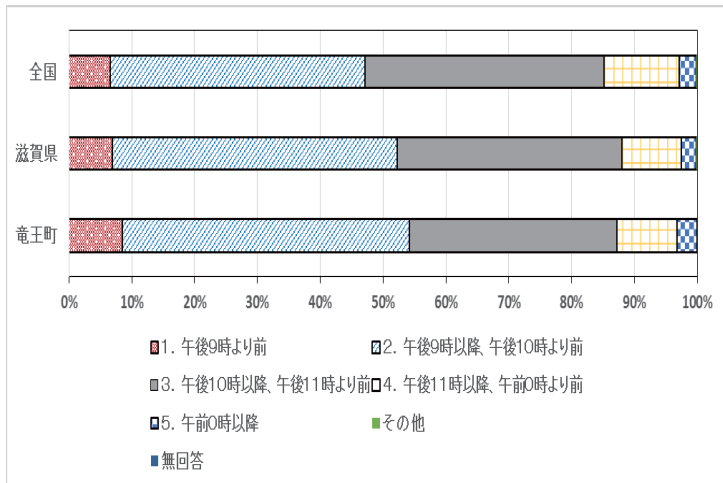


<中学生>

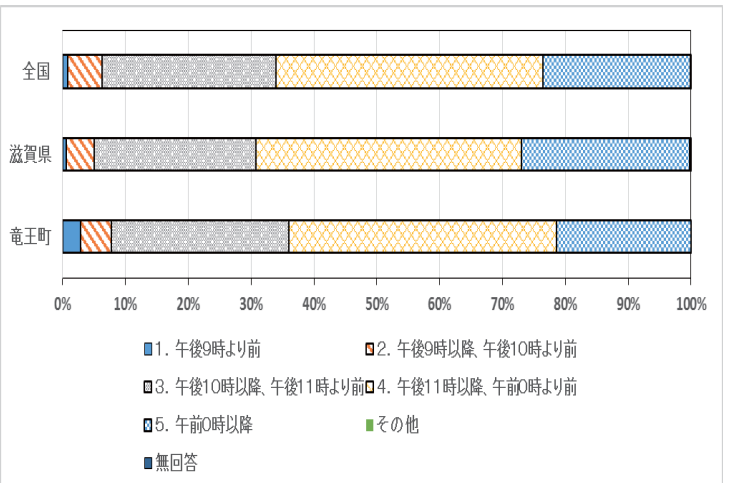


イ 就寝時間 小、中学生とも早く寝る子と遅く寝る子の二極化がみられる。

<小学生>



<中学生>



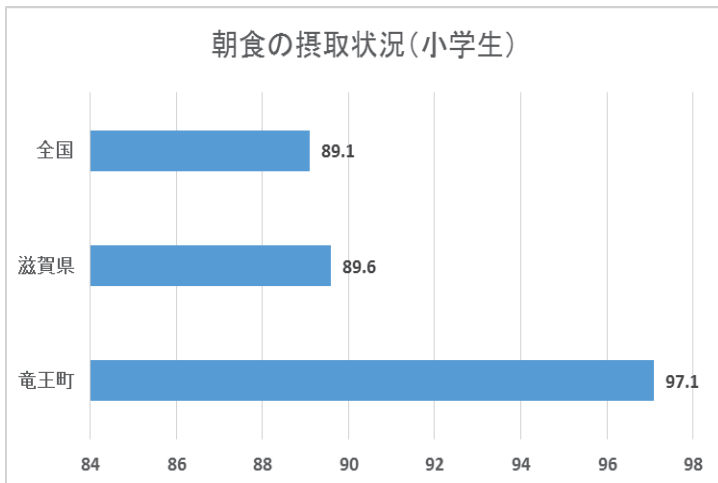
ウ 食習慣（朝食の摂取状況）

小、中学生ともに毎日食べている子どもたちは、全国平均と比べると高い数値となっている。

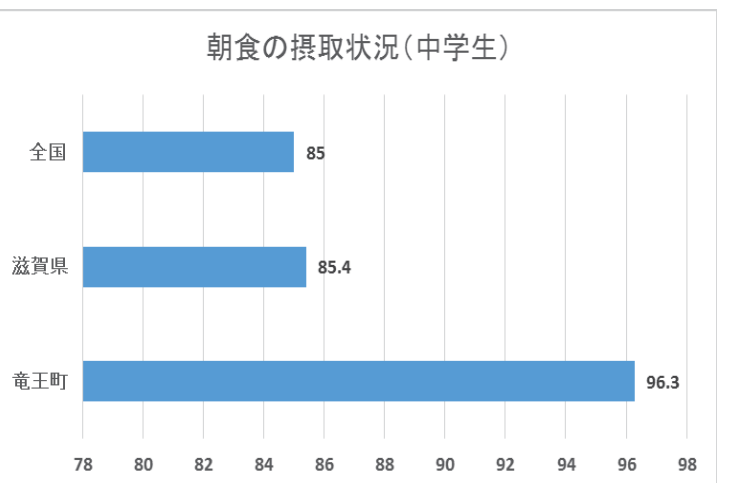
(単位: %)

(単位: %)

朝食の摂取状況(小学生)



朝食の摂取状況(中学生)



4. 体力向上推進にかかわる現状と課題

(1) 竜王町内の子どもたちのスポーツを取り巻く環境

【竜王町スポーツ少年団】

昭和 60 年に設立され、各単位団での活動を基本に子どもの心身の成長・発達を助長し、人間形成の機会として活動している。

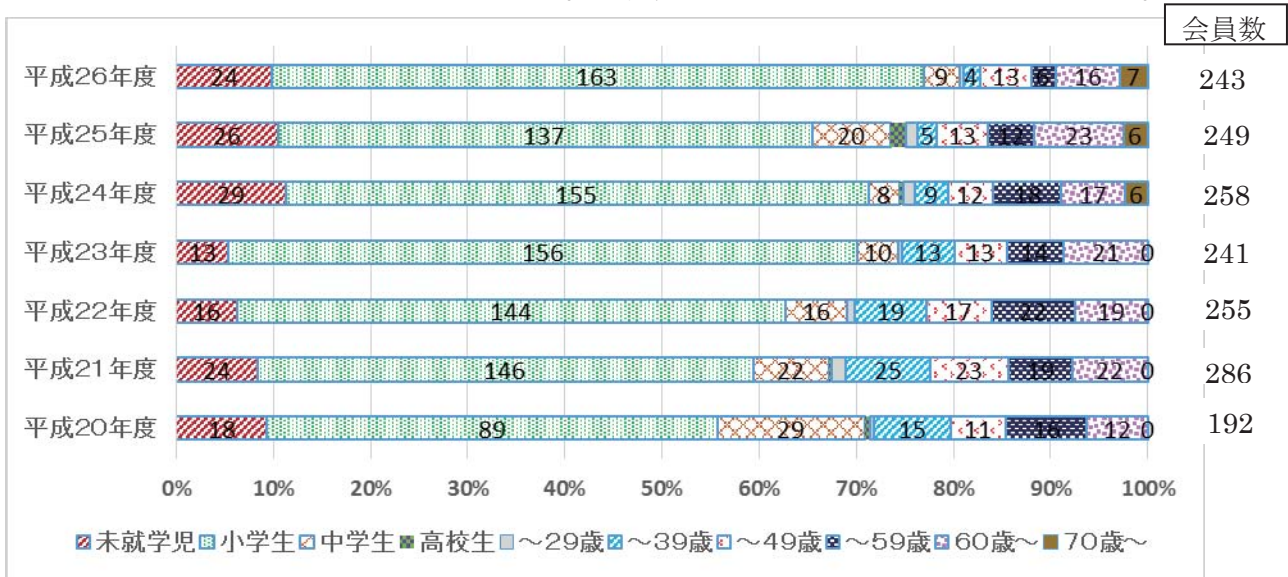
	竜王サッカー	竜王バレー	竜王野球	竜王柔道	竜王西野球	竜王剣道	合計
平成20年度	48	21	40	34	29	25	197
平成21年度	38	32	37	19	28	18	172
平成22年度	43	22	45	11	21	16	158
平成23年度	59	27	46	9	23	13	177
平成24年度	66	26	38	6	20	6	162
平成25年度	75	26	44	10	15	4	174
平成26年度	70	39	37	11	13	4	174

過去 7 年間の竜王町スポーツ少年団団員数の推移（単位団別・単位：人）

*平成 26 年度は 12 月 1 日現在である

【ドラゴンスポーツクラブ】

町民がいつでも、誰でも、気軽に参加でき、継続的にスポーツに親しみ健康や体力増進を図る目的で平成 16 年度に設立された。会員の 8 割が小学生以下で占めている。

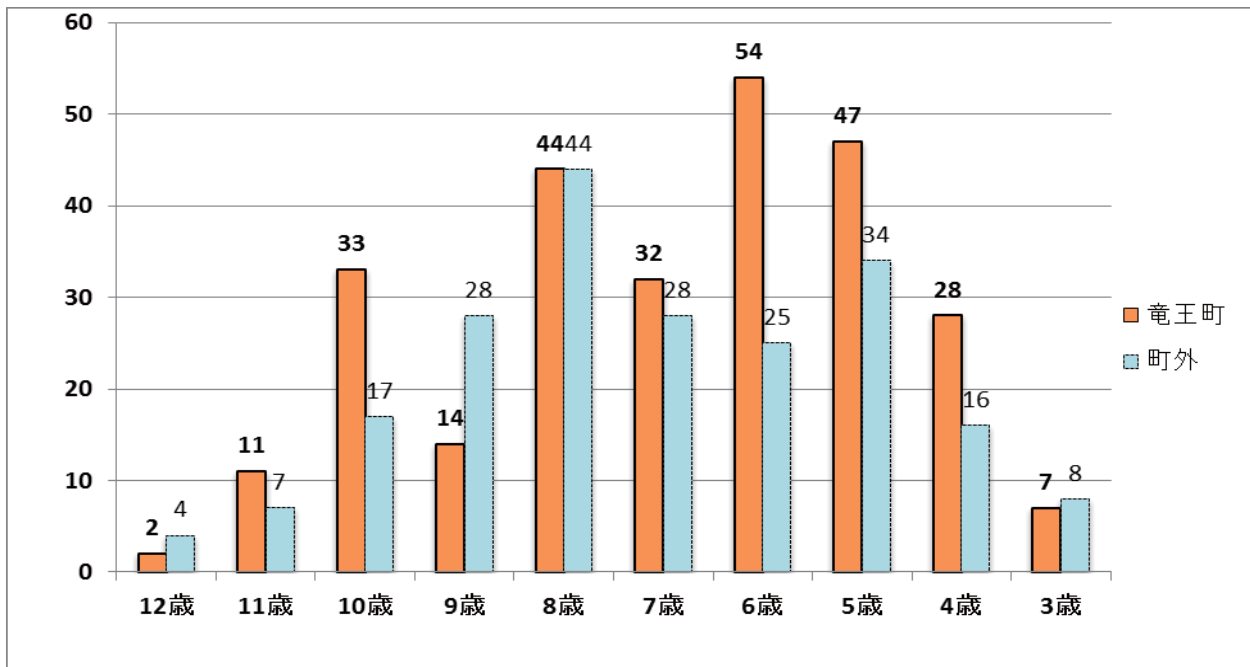


過去 7 年間のドラゴンスポーツクラブの会員数の推移（年齢別・単位：人）

*平成 26 年度は 6 月 1 日現在である

【公益財団法人竜王町地域振興事業団】

平成 7 年度に発足し、平成 17 年度からは「指定管理者制度」により町から指定され、竜王町総合運動公園、妹背の里の管理運営およびスポーツ活動の拠点としてスポーツスクールなどの自主事業を実施している。



平成 26 年度春期（4 月～6 月）スクール会員状況（H26.5 月現在）

(2) 子どもの体力低下の原因と課題

▼子ども（幼児～小学生）の体力低下

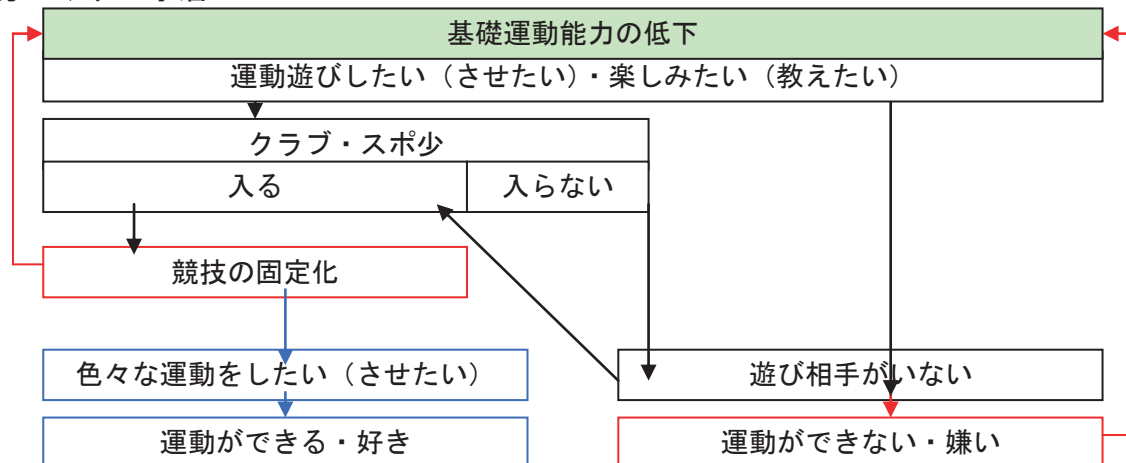
- ・柔軟性、投げる力、姿勢保持、動作の応用力など

要因

- 自然環境を生かしきれていない
- 幼稚園と小学校の連携課題（小学校体育教育を受けるための体力が備わっていない）
- 放課後など家庭での生活環境（ゲーム 2 時間以上）
- 地域での環境変化①（外遊び場の制限、ボール遊び禁止など）
- 地域での環境変化②（クラブ等に入ることによって遊ぶ時間・人数の減少）
- 競技の早期固定化

現状

- ・異学年、地域住民との交流が制限
- ・（競技固定化によりテクニックは備わるが）基礎運動能力の伸び悩みや、早期のケガ・故障
- ・二極化（運動ができる・好き⇔運動ができない・嫌い）
- ・環境づくりの矛盾



課題

⇒ 保護者の価値観の変化による外遊びの減少

(3) 学校の現状と課題

▼中学校部活動問題

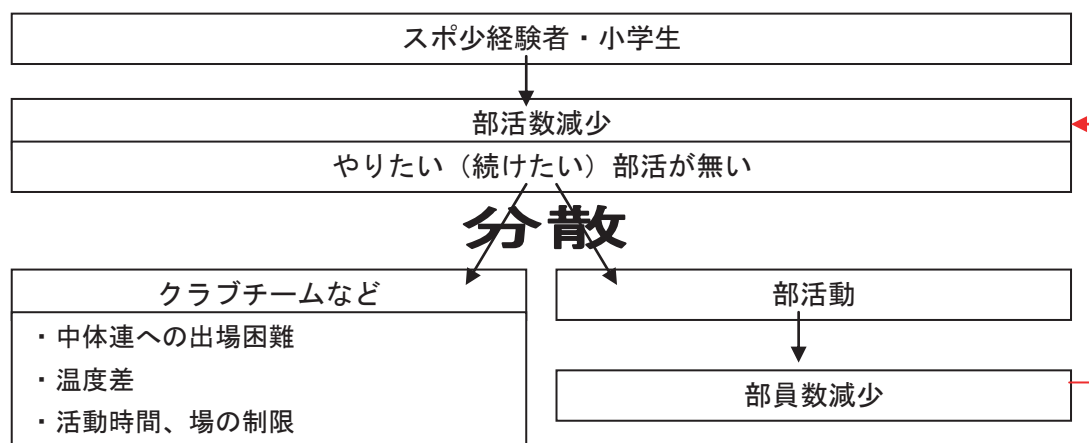
- ・生徒数の減少により、現存する部活動の維持をすることが難しい
- ・スポーツ少年団の種目との違いによって一貫した特色あるスポーツを創出することは難しい

要因

→ 少子化による生徒数の減少とそれに伴う教員減少

現状

- ・選択肢の広がりによる矛盾 → 団体種目の成立が難しくなっている



課題

- ⇒ 中学校と地域クラブの連携（現状は名義のみ使用して中体連へ参加の例あり）
- ⇒ 保護者・指導者・教員への理解
- ⇒ スポ少（小学生）と部活動（中学校）との連携

部活動名	男子部員数				女子部員数				合計	
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計		
運動部	陸上競技	6	7	8	21	4	4	1	9	30
	ソフトボール				0	3	5	3	11	11
	バレーボール				0				0	0
	バスケットボール	5	8	13	26	7	6	4	17	43
	ソフトテニス	6	13	11	30	10	6	15	31	61
	卓球	7	10	3	20				0	20
	バドミントン				0	5	7	10	22	22
	サッカー	11	10	11	32				0	32
文化部	吹奏楽				0	10	15	5	30	30
	美術		1	1	2	5	9	1	15	17
	パソコン			6	6		4	1	5	11
在籍生徒数	48	57	67	172	45	63	45	153	325	
運動部計	35	48	46	129	29	28	33	90	219	

文化部計	0	1	7	8	15	28	7	50	58
未入部生徒数	13	8	14	35	1	7	5	13	48

竜王中学校部活動の状況（H26. 5. 1 現在）

▼学校体育

ア 現状

全国体力テスト等の結果を踏まえて、滋賀県教育委員会の指導の下、各学校園の授業・保育や体力向上の取組がなされている。

- ・小学生 1 日 30 分運動の継続
- ・新体力テストの全校種・全学年での実施
- ・竜王小学校を拠点校とした「10 分間運動」の実施

的当て

種目場所のローテーション（週 3 回学年部ごとに継続した曜日で取り組む）

1 学期、2 学期

体育館 投てき（的当て）

グラウンド サーキット（敏捷性、持久力）

学級遊び（楽しみながら体を動かす）

3 学期

ダンス、的当て 学級遊び

1 年間通じて 大縄跳び大会

- ・運動会やマラソン大会、水泳大会など体育的行事の実施
- ・休み時間などの時間を活用した体力づくりの取組
- ・体力づくりに関する研修の実施

イ 課題

- ・教師の指導力の向上
- ・体育の授業の改善
- ・家庭との連携した取り組み
- ・体づくりのための食育の充実
- ・子どもの体力向上に向けて、体力テストの結果が男女とも全国平均をめざす

5. 町の体力向上施策の課題に向けての方向性

基本理念

竜王町の未来を拓く心豊かでたくましいひとづくり

(1) 推進目標

平成 31 年（2019 年）年までに、
幼小中の幼児、児童、生徒の体力について昭和 60 年の体力水準を上回る

(2) 計画年次

平成 27 年度から平成 31 年度まで

※体力・運動能力向上に向けた取組は、短期的に効果・結果が表れるものではなく、中～長期的に推進し、成果を検証しながら内容を見直していく必要があります。

(3) 目標達成に向けた基本方針と方策

@基本方針

生涯にわたってスポーツができるよう、『時間』『空間』『仲間』を生み出し、家庭・地域と学校園・行政が一体となって、スポーツをする機会の確保や環境を改善し、体力の向上につなげる。

@方策

家庭・地域・学校における子どものスポーツ機会の充実を図るため、

戦略 1 スポーツは、子どもたちにとって成長過程において人間形成の場として重要な要素をもつので、乳幼児期から子どもが積極的に運動遊び等を通じて体を動かす楽しさや運動遊びを親しむ習慣、意欲を養い、体力向上を図る。

⇒ 乳幼児期は、人としての初歩的な運動技能（転がる、腕を支える、座る、かがむなど）が形成される大事な時期であるとともに、運動をする意識の芽生える時期です。そのため、この時期に保護者に対し、乳幼児健診等の中で、子どもの心身の発達の道筋や、発達段階にあった関わり方、家庭内で出来る運動等を学んでもらう場を提供するなど、関係機関と連携して運動嫌いの子どもをつくらない環境づくりを進めます。

⇒ 運動嫌いの子どもをつくらないために、関係機関、関係団体と連携し、子どもの発達段階に応じた外遊びを促したり、子どもたちに運動を見せる中で、自ら興味を持たせ、“楽しさ”“面白さ”を教えていきます。そして、年齢に応じた様々な運動遊びプログラムによる研修会等を実施し、幼児期の子どもたちの基本的運動機能（走る・跳ぶ・投げる）の強化をすすめていきます。また、親子で家庭での遊びについて学ぶ場も提供します。

親子での取組

- ・ 全身運動（親の体をくぐる、登る）
- ・ バランス感覚を養う（膝の上に乗る）
- ・ 跳躍力を養う（手をつなぎジャンプする）
- ・ 踏ん張る力を養う（タオルで引っ張り合う）
- ・ リズム感を養う（足をグーパー開く）

運動遊びプログラム

- ・ 3～4 歳児
（からだを柔軟に動かす、体の伸び縮み、腹筋強化）
- ・ 4～5 歳児
（四つん這いの動き、平衡感覚を養う、腕力の強化、まわる感覚を養う他）

⇒ 妹背の里プレイパークをはじめとした町内の既存施設や自然を利用し、痛みがわかる程度に外で自由に遊ばせ、たくさん経験ができる環境づくりに努めます。

⇒ 関係機関、関係団体による幼児や小学生対象の年齢に応じた運動教室を開設し、体を動かす機会を提供します。

戦略 2 小学校の体育の授業の充実等、学校の教育活動全体を通じて、子どもたちがスポーツの楽しさや喜びを味わえるようにするとともに、体力の向上を図る。

⇒ 滋賀県教育委員会の指導の下、体力向上の取組がなされている **10 分間運動**（中休みの業間を利用した運動＜業間運動＞）を充実し、継続できるよう支援していき

ます。

体育館 投てき（的当て）
グラウンド サーキット（敏捷性、持久力）
学級遊び（楽しみながら体を動かす）

- ⇒ 保幼小中の体力づくりの実践交流など、校園との連携に努めます。
- ⇒ 年間通じて、体育の授業等でのラジオ体操の取組に対し、実技指導の講師招聘などの支援に努めます。

戦略 3 中学校部活動を積極的に支援していくため、外部講師の派遣や地域の人材協力により、指導者を確保するなど地域全体で支える。

- ⇒ 学校の教育活動と社会体育活動を相互に取り入れて学校と地域が取り組む部活動の実現をめざすため、スポーツ少年団と小・中学校が協議（下記参照）を進める中で、試行的に地域で指導者を複数確保でき、継続して指導できる競技を選択して、学校と地域が合同で部活動をできるように支援していきます。
- ⇒ 効果的に部活動の支援が進むように、学校とスポーツ少年団の協議の場を定期的に行います。
- ⇒ 小学生に呼びかけて、部活動の実践交流を進めていきます。

スポーツ少年団と中学校の連携について

現状

中学校部活動の抱える課題（特筆すべき点）は以下の通りである。

- ①生徒数の減少に伴う教員（部活顧問）の減少
- ②生徒数の減少に伴う1部活動あたりの部員数の減少（1学年でチームが組めない）
- ③スポーツ少年団との競技種目の不一致（サッカーのみ一致、他【野球（竜王、西）、バレー、柔道、剣道】は整合性なし）
- ④生徒の競技種目の多様化（中体連参加種目の増加）

課題解決のために

☆目標「学校・地域で取り組む部活動」

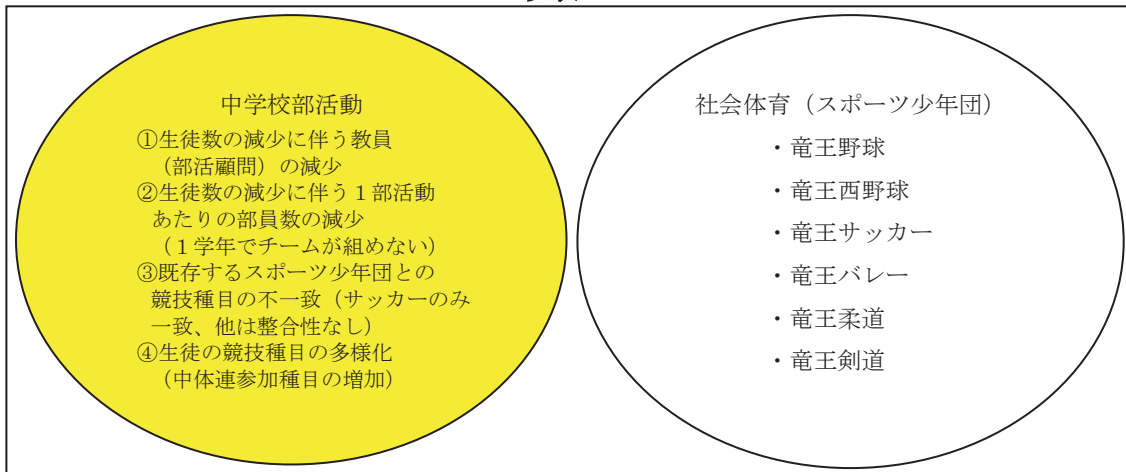
- 地域のボランティア人材（指導者）が多くいる中で、部活動を支援していく学校の教育活動と社会体育を相互乗り入れした総合型の部活動づくり。
- 学校顧問と地域指導者が連携し、一緒にコミュニティーを築きながら指導する。（学校の顧問、地域指導者との複数体制）

具体的な取組

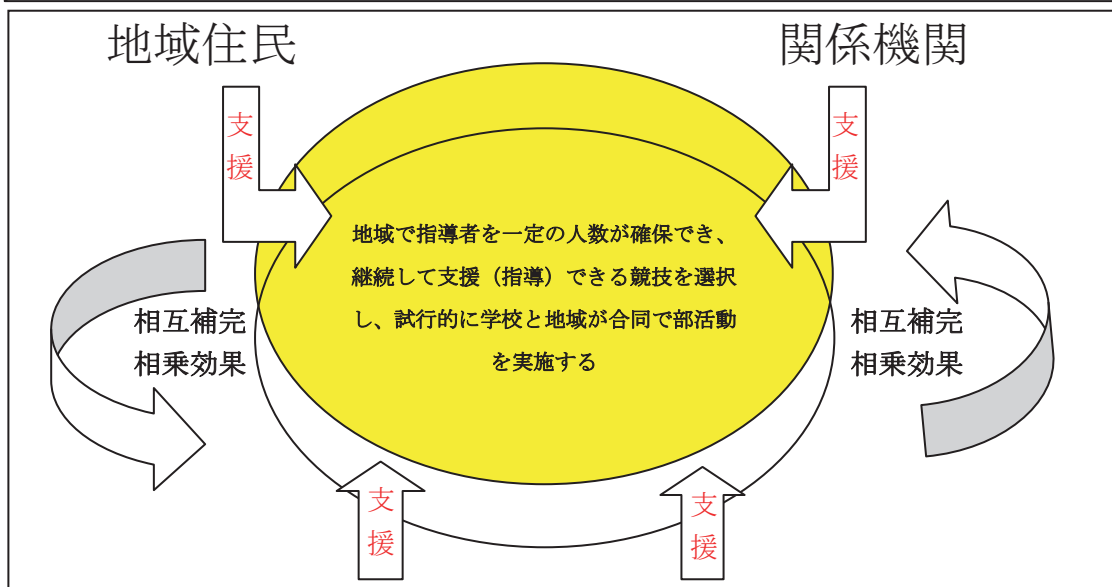
試行的な取組として、地域で指導者を一定の人数が確保でき、継続して支援（指導）できる競技を選択し、試行的に学校と地域が合同で部活動を実施する。

* 中学校部活動の支援イメージ図

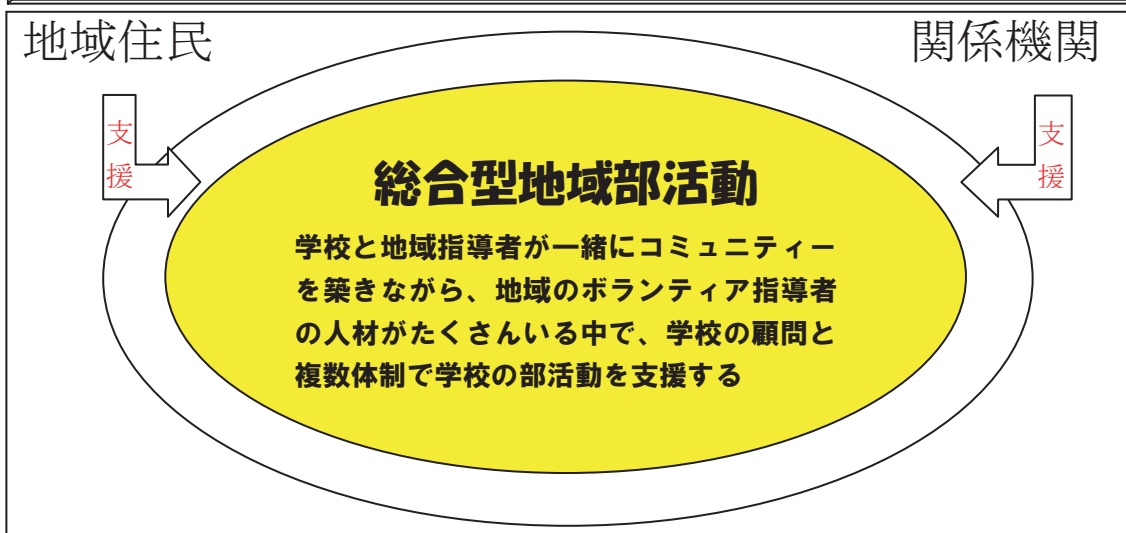
現状



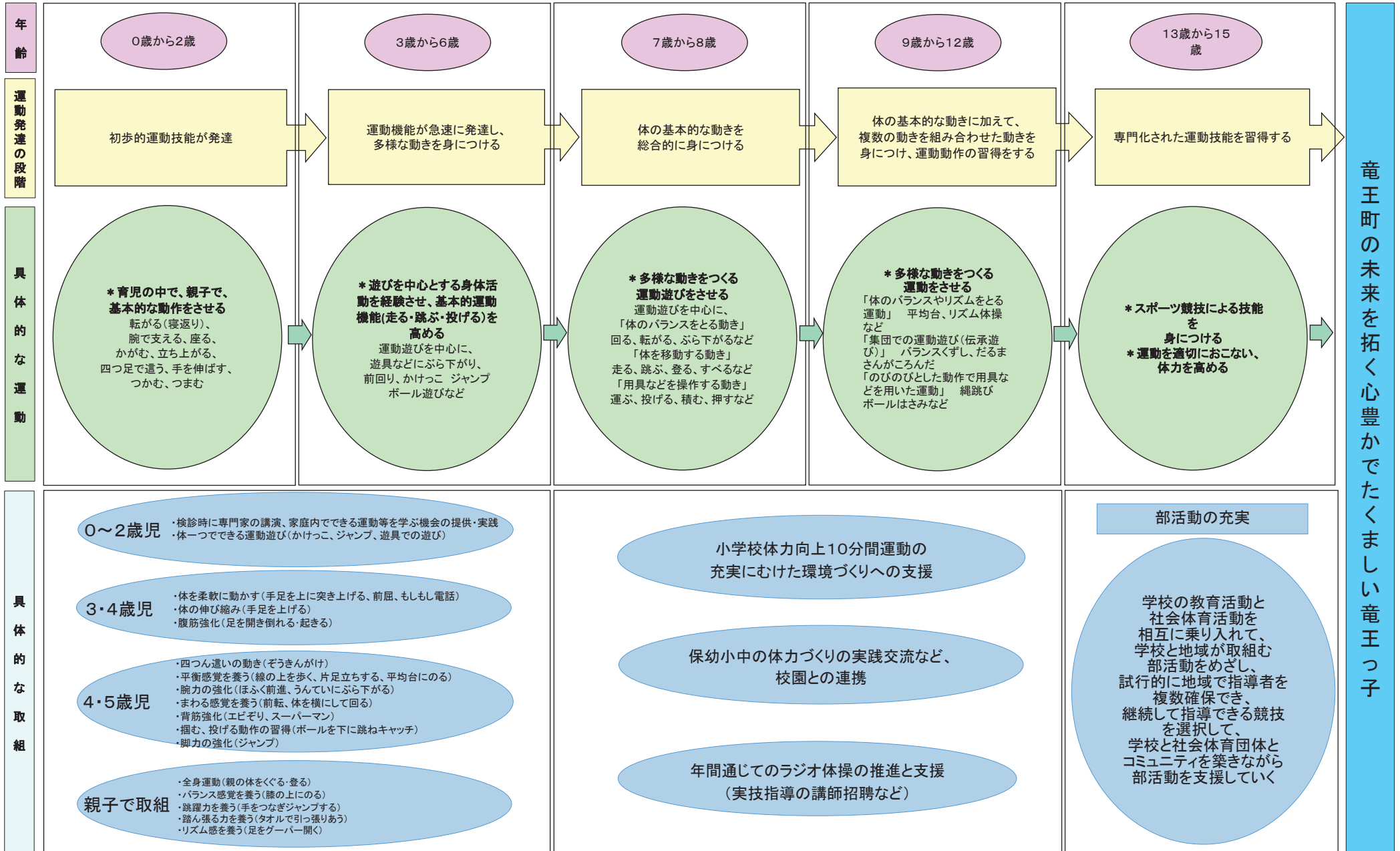
試行的取組（地域ボランティアの人材から、部活動を支援する）



めざすべき姿（学校の教育活動と社会体育を相互乗り入れした総合型の部活動）



竜王っ子体力向上プラン



資料

1. 竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子 体力向上プラン」策定の経緯

平成 25 年 11 月 25 日

第 1 回 竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会

- 竜王町子どものスポーツ活動のあり方についての趣旨説明
- 子どもたちのスポーツ活動の現状について

平成 26 年 1 月 31 日

第 2 回 竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会

- 竜王町の子どものスポーツ活動の現状と課題について

平成 26 年 3 月 25 日

第 3 回 竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会

- 生涯スポーツ育成のための地域づくりについて

平成 26 年 6 月 13 日

第 4 回 竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会

- 課題解決に向けた方向性について

平成 27 年 1 月 27 日

第 5 回 竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会

- 竜王町子どものスポーツ活動のあり方（竜王っ子体力向上プラン）の骨子について

平成 27 年 3 月 5 日

第 6 回 竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会

- 竜王町子どものスポーツ活動のあり方（竜王っ子体力向上プラン）の素案について

平成 27 年 3 月 19 日

第 7 回 竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会

- 竜王町子どものスポーツ活動のあり方（竜王っ子体力向上プラン）の建議案について

平成 27 年 3 月 31 日

「竜王町子どものスポーツ活動のあり方について」建議

- 竜王町子どものスポーツ活動のあり方検討委員会委員長から竜王町教育委員会教育長に、「竜王町子どものスポーツ活動のあり方について」建議

平成 27 年 6 月 23 日

竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子 体力向上プラン」策定

- 竜王町教育委員会◎月定例会にて、竜王町子どもの体力向上推進計画「竜王っ子 体力向上プラン」の承認

資料

2. 竜王町子どもスポーツ活動のあり方検討委員会委員

(敬称略・順不同)

(H25.11.1～H27.3.31)

区分	氏名	備考
学校関係者	石崎 靖明	竜王小学校
	新庄 証	竜王西小学校
	田中 靖雄	竜王中学校 (～H26.3.31)
	奥田 直	竜王中学校 (～H26.3.31)
	市田 太芽男	竜王中学校 (H26.4.1～)
	小林 健	竜王中学校 (H26.4.1～)
スポーツ団体関係者	山中 修	竜王町スポーツ少年団 【副委員長】
	小林 文雄	竜王町スポーツ少年団
	勝見 孝一	竜王町スポーツ推進委員会
	寺島 俊恵	ドラゴンスポーツクラブ
関係行政機関	吉田 光宏	竜王町地域振興事業団
	市田 太芽男	竜王町教育委員会事務局学務課 (～H26.3.31)
	深井 実	竜王町教育委員会事務局学務課 (H26.4.1～)
学識経験を有する者	松田 保	びわこ成蹊大学 (～H26.3.31) 大和大学 (H26.4.1～) 【委員長】